

東日本大災害被災者支援活動報告 No.1

■3月

1 1日14時46分、地震・津浪発生。被災地は停電になり情報が途絶える。沿岸部は津浪に襲われ多くの犠牲者とそれを目の当たりに見ている人がいる。しかし、それ以外の被災者は、停電のためその悲惨な状況を知ること無し。強い揺れにもかかわらず家屋の被災が思ったよりも少ないことに安堵。

翌日に想像を絶する状況を知ることになるが、あまりにも広範囲な被災地と膨大な被災者にどう対処すればよいのか見当もつかない。組織的に動こうとしても電話が通じず互いに連絡が取れない状況がしばらく続いた。動ける人が出来るところから被災状況の情報収集を主にしながら、手に入る支援物資を持って沿岸部の市町を駆け回った。本会を含め関係機関・団体が、被災時の組織的な活動の訓練が出来ておらず、それぞれの役割も定まっていなかったため、効果的な行動が確保できなかった。

主な活動は、

- ①被災関係情報の収集と被災地現場の視察
- ②関係機関との情報交換
- ③被災地へ緊急支援物資の輸送と配布
- ④被災者支援の組織体制づくり準備
- ⑤支援物資の仕分けと発送支援
- ⑥津浪被災市町各社協に対して「災害救援ボランティアセンター設置・運営」ハンドブック3冊+DVD1枚配布。
- ⑦沿岸被災地へボランティア派遣
- ⑧泥かきボランティア派遣

(仙台市若林区七郷地区)



■4月

時間の経過と共に支援活動可能な内容が見えてきつつ、その準備と体制づくりに入った。必要な支援物資も細部まで届かないのが判っても、広範囲な地域に対する支援体制（人的、物資的、資金的、車両等）が確保できず、無力感さえ覚えた。

主な活動は、

- ①被災地情報収集
- ②行政及び社協との連携・情報交換
- ③沿岸被災地へボランティア派遣
- ④支援物資の仕分けと発送・配布支援
- ⑤みやぎ登米市災害ボランティアハブセンター設立
- ⑥登米市災害ボランティア館オープン運営開始
- ⑦ボランティア送迎及びコーディネート
- ⑧避難所余剰物資調査
- ⑨泥かきボランティア派遣



(登米ハブセンター)

■5月

被災者支援も落ち着き始め、支援を受ける被災者の凸凹を調整する時期に入ってきた。このあたりから避難所に避難した人と借家や自宅避難者間の支援物資を受けるトラブルが表面化し始めた。避難所には大量の支援物資が配布され数多く炊き出し等が行われたが、それ以外の被災者は、ほとんど支援物資を受けられなかった。被災前に「受援」の訓練がなされておらず、支援に「差別化」が行われた。長期間の避難生活を余儀なくされること想定されていなく、また、街の中に移転した被災者個々の支援をするまで手が回らなかったのも事実だが、「指定避難所」のみの支援体制と被災者個々の支援体制に課題が残った。

主な活動は、

- ①沿岸被災地へボランティア派遣
- ②赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」及びJPF「共に生きる」ファンド配分申請書作成

- ③登米市災害ボランティア館オープン運営
- ④仙台市災害ボランティアセンターにて広報・ニーズ調査・泥かき（バイク隊）
- ⑤支援事業スタッフ会議（事業計画）
- ⑥避難所未配布支援物資を別避難所へ輸送
- ⑦支援物資の仕分け・運搬・配布
- ⑧泥かきボランティア派遣
- ⑨仙台市若林区にて炊き出し



■6月

仮設住宅の建設とその入居が目前になると共に、避難所閉鎖も日程に上り始めた。被災者の「自立」が求められる、そのための準備期間に入った。支援物資も大量に残り、その処分問題も大きくなってきた。反面、何の支援も無い在宅被災者も表面化しつつあった。被災者の「支援依存心」が強くなっている言動も目に付き始めた。また、支援物資配布場所において「支援物資横流し」を思わせる人の影も見受けられた。

仙台市青葉区錦が丘にあるWFP（国連世界食料計画）倉庫を仙台市から借りることになり、仙台市青葉区中山市民センターで仕分した支援物資を9月まで保管できることとなった。

主な活動は、

- ①災害ボランティア館第2段階オープンとフリーバザー
- ②沿岸被災地へボランティア派遣
- ③支援事業スタッフ会議
- ④長期間の支援活動拠点の確保
- ⑤支援物資処分作業
- ⑥ボランティア送迎・コーディネート
- ⑦物資運搬
- ⑧仙台市若林区上荒井集会所及び若林体育館でフリーバザー
- ⑨泥かきボランティア派遣



■7月

仮設住宅建設が本格化し避難所から仮設住宅へ被災者の引越しも始まり、支援内容も緊急支援から自立支援に移行し始めた。被災地市町各社協も災害ボランティアセンターも閉鎖や規模縮小へ動き、日常業務での被災者支援へと移行し始める。また、県外から来るボランティアの員数も減り、撤退するNGOや宗教団体、ボランティア団体が始まった。

被災地から県内のボランティア団体への期待と被災地ボランティア団体としての役割が県外の支援団体が変わって次第に大きくなってきた。また、自治体に寄せられた支援物資も行政に代わってわれわれが配布し、できるだけ無駄（廃棄）にならないようにした。

主な活動は、

- ①登米市災害ボランティア館第2段階運営とフリーバザー
- ②南三陸町にて誘致事業の住宅、仕事場、コミュニティーホール建設の構想協議。花卉農家の方々と再建築について話し合い（被災者自立支援）
- ③青葉区錦が丘の倉庫整理・支援物資を他ボランティア団体に払出し・青葉山の倉庫へ運搬
- ④登米市内仮設住宅支援について南三陸町と協議（歌津地区仮設住宅支援活動）
- ⑤登米市防災課と南三陸仮設住宅支援協議
- ⑥登米市内避難所訪問11カ所、気仙沼市社協及び女川町社協のボランティアセンター訪問
- ⑦三陸沿岸部での漁業支援等について漁業関係者と話合う
- ⑧栗原市にて日本の森バイオマスネットワーク復興支援プログラム協議
- ⑨宮城県産業立地課打ち合わせ（夏物下着提供）
- ⑩栗原市防災課、南三陸町役場災害支援等の協議



⑪泥かきボランティア派遣

■8月

青葉区錦ヶ丘にあるWF P支援物資倉庫を借用することによって、支援他団体と支援物資を融通し合い、効果的な配布を行うことが出来た。特に、他団体が配布を希望する物資を供給することにより配布ルートが広がり、大量の物資を提供することが出来た。

被災者支援は、避難所から仮設住宅への移行に伴い支援物資配布から自立支援に移行する時期となってきた。特に、沿岸部を担当している登米支部では、南三陸町の仮設住宅が近くにあることから、自立支援に向けての準備が本格化し始めた。

主な活動は、

- ①物資館半日開館 石巻・南三陸・女川物資デリバリー
- ②登米市社協主催の東日本大震災登米市を拠点として活動している団体の情報交換会出席
- ③南三陸町社協の仮設住宅支援員と南方南三陸仮設住宅支援打ち合わせ
- ④シビックホースとボランティア宿泊施設建設協議。
- ⑤宮城県産業立地課（夏物下着）受領・仕分け
- ⑥仙台市若林区上荒井地区の夏祭り参加（支援）
- ⑦南三陸生活支援センターにて南方仮設住宅支援で協議（南三陸町で南方仮設敷地に建物建設について）
- ⑧登米社協と南方仮設支援及び登米市内に居住をするボランティア団体との連携に関する協議
- ⑨登米災害ボランティア館にて物資配布。ボランティア宿泊所運営
- ⑩宮城県東部事務所と発電機の物資支援を頂くこと及び登米市長寿介護課と発電機配備で協議
- ⑪南三陸町南方仮設住宅支援員とコミュニティーづくりについて協議
- ⑫登米市米山町十日町区、登米市民生委員・児童委員迫支部 防災講演会 講師
- ⑬東松島市にて災害ボランティア活動調査。セヶ浜町・多賀城市の仮設住宅に物資配布
- ⑭NPOぐるっと・及びシビックフォーと協働事業について協議
- ⑮NPOAMADA南三陸病院（登米市米山診療所）への応援医師支援（宿泊所提供）
- ⑯高速道路公団金成インター事務所にて高速道路無料通行について事務処理を協議



■9月

本会の事務所を仙台市若林区卸町に移転し、支援物資の一部を保管すると共に、被災者支援の拠点作りを本格化し始めた。青葉区錦ヶ丘にあるWF P支援物資倉庫を明け渡すため、支援物資を青葉山の倉庫（個人所有借用）に移動させた。登米支部は、8月に続いて自立支援の内容について関係者との協議が続けられた。また、中央共同募金会からの配分金事業は、9月で終了した。

主な活動は、

- ①県庁危機対策課にて高速道路無料通行手続き協議
- ②東北福祉大学にて地域減災論Ⅱ講師
- ③津山仮設（横山）支援員活動支援
- ④津山・南方仮設住宅町内会づくり会議及び懇談
- ⑤中古自転車配布
- ⑥ボランティア宿泊所運営
- ⑦東松島市・女川町・石巻市現地踏査
- ⑧物資仕分け、支援物資移送作業（錦ヶ丘撤退、一迫から築館へ、宮城県からの発電機）
- ⑨南三陸津山仮設住宅町内会運営会議、南三陸町南方仮設住宅町内会づくり会議出席
- ⑩登米市議会議員との災害時の具体的対応等協議



(9.13 山元町東田仮設住宅支援)